

令和9年産

小麦技術情報No.1

令和8年9月16日
巻農業普及指導センター

～排水対策、適期播種の徹底で初期生育確保～

- 降雨により、ほ場の地耐力が緩んでいるため、麦作付予定ほ場の排水対策を徹底しましょう。
- 周囲明渠、補助暗渠などの排水対策は、前作物の刈り取り後、早期に実施しましょう。
- 初期生育の確保に向け、播種は9月下旬から10月中旬に実施しましょう。
- 雑草防除や、は種後の秋期追肥を適期に実施し、越冬後の茎数を確保しましょう。

1 ほ場の準備

降雨が続き、ほ場の地耐力が緩んでいるため、麦作付予定の水稲や大豆ほ場の排水対策を徹底しましょう。

周囲の水田からの流入水を防止するために、ほ場の団地化を図り、暗渠が施工された排水性が良好なほ場を選定しましょう。

また、降雨後のほ場内の停滞水を短時間で排除するため、周囲明渠、補助暗渠などの排水対策を確実に実施しましょう。

(1) 排水対策

○ 周囲明渠

- ・ 額縁に沿って幅30cm、深さ30～40cm程度の溝を設けましょう。
- ・ 明渠と排水口は必ず連結させましょう。

○ 補助暗渠

- ・ 弾丸暗渠や心土破碎（サブソイラなどによる）が一般的で、施工により地下排水の速効性が期待できます。

深さ30～45cm、間隔1～3mとし、本暗渠と直交させましょう。

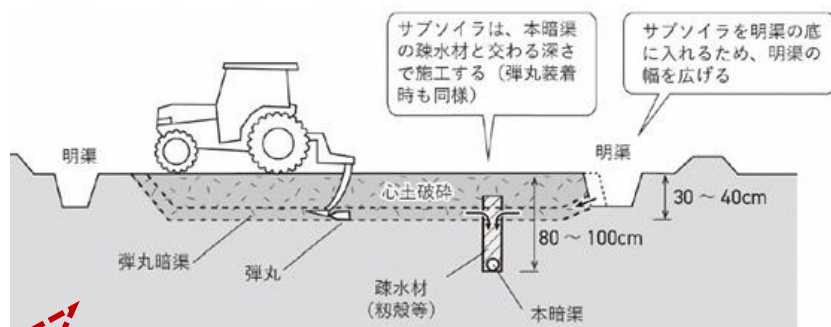


図1：補助暗渠の施工例

令和5年度実証ほでは、排水対策を徹底した場合、収量及び千粒重の向上が確認されました。

	穂数(m ²)	収量(10a)	千粒重
排水対策区	432 本	525 kg	42.2 g
未実施区	369	437	41.7

(2) 酸度矯正

- 小麦は酸性土壌では生育不良となるため、石灰資材の施用により酸度矯正を行いましょう。（目標：pH6.0～6.5）

表1：土壌pHを1.0上昇させるために必要な石灰質資材施用量の目安

石灰質資材	アルカリ分 保証%	面積10a×深さ10cm当たり必要量(kg)			
		砂壤土 (SL)	壤土 (L)	埴壤土 (CL)	埴土 (C)
生石灰	80	110	170	220	280
消石灰	60	150	220	300	370
炭カル	53	170	250	340	420
苦土石灰	55	160	240	330	400

※ アレニウス表による炭酸カルシウム施用量から算出。

(3) 基肥

- 基肥の標準施肥量は10a当たり成分で窒素4kg、リン酸8～10kg、カリ3～4kgです。
- ドリル播では側条施肥が早期の茎数確保に有効です。

2 は種

(1) 耕起・碎土・整地

- 出芽・苗立ちを安定させるため、**碎土率（2cm以下の土塊重量割合）を70%以上に高めましょう**。一方、粘土質のほ場では、碎土率が高すぎると、は種後の降雨で土がしまりやすく、湿害になりやすいので、**大豆跡では碎土率が高くなりすぎないように注意**してください。
- 土壌水分が高い時に耕うんを行うと、土を練り返し透水性を悪化させるので、数日晴天が続き**土壌が乾燥した状態で作業**をしましょう。
- 降雨の影響を避けるため、**耕起からは種までの作業は1日**で行いましょう。

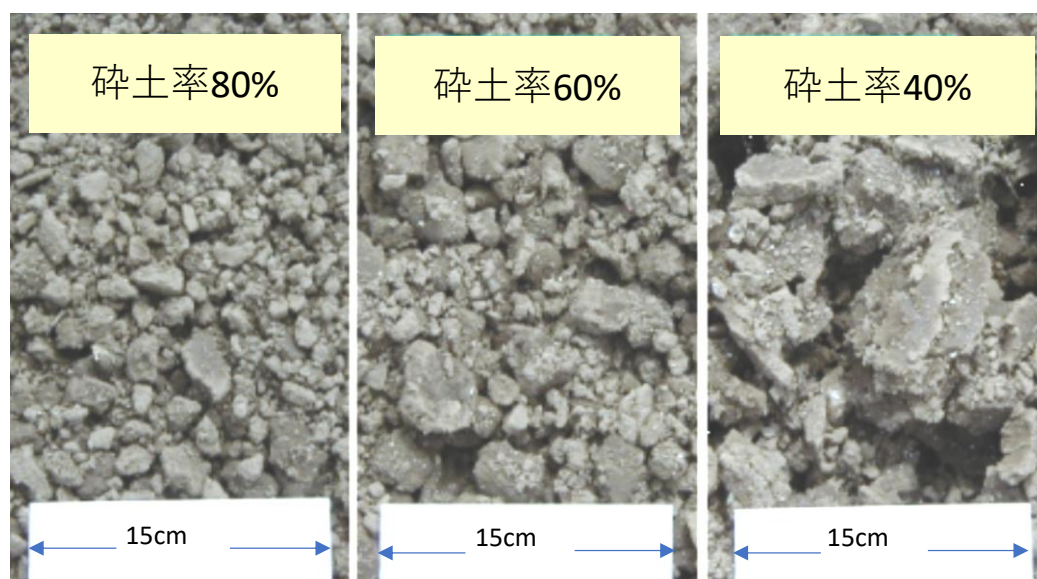


図2：碎土率（70%）のめやす

(2) 種子消毒

- ・種子伝染性病害(裸黒穂病、なまぐさ黒穂病、堅黒穂病、オオムギ斑葉病、オオムギ雲形病)は生育期防除が困難なので、必ず種子消毒を行いましょう。

(3) 適期は種

は種適期	は種様式	は種量 (kg/10a)	苗立率 (%)	苗立数 (本/㎡)
9/25～10/15	ドリル播	8～10	90	180～230
	全面全層播	12～14	60～70	180～250

- ・早期茎数確保による湿害回避にむけ、**必ず適期は種を実施**しましょう。
(越冬直前の目標生育量：葉数5葉以上、乾物重15g以上)
- ・は種様式は、**ドリル播**が出芽・苗立ちや生育・収量が最も安定します。
- ・は種量が多すぎると細茎・長稈となり倒伏を助長します。一方、は種量が少ないと穂数の確保が難しく減収の要因になるだけでなく、雑草が発生しやすくなります。このため、目標苗立ち数を確保するよう、は種量を調整しましょう。

3 秋期追肥

(1) 秋期追肥前の対策

- ・**排水不良ほ場では、秋期追肥施用の前に排水対策を徹底**しましょう。
加湿状態は黄化の発生を助長するだけでなく、根の養分吸収能力が低下するため、追肥をしても効果が期待できません。

(2) 施用量・施用時期

施用量	施用時期
窒素 2kg	は種後2週間～1か月(遅くとも11月末までに実施する)

- ・**気温が4～5℃を下回ると追肥の効果が期待できない**ので、遅れずに施用しましょう。また、**施用量が多すぎると耐雪性が低下**するので注意しましょう。

4 雑草防除

(1) は種直後の土壌処理除草剤

- ・除草剤の有効成分によって、イネ科雑草や広葉雑草など草種に対して効果の良否があるので、ほ場に発生する雑草種に応じて除草剤を選択しましょう。
- ・ドリル播、全面全層播は、は種後すぐに除草剤を散布し、確実な雑草防除を行いましょう。
- ・イネ科雑草のスズメノカタビラは、越冬後の除草剤散布では効果が劣るため、スズメノカタビラが多発するほ場では、は種直後の土壌処理剤で確実に防除しましょう。

(2) 生育期処理除草剤

- ・生育期に雑草発生が多い場合に使用しましょう。